

石上真由子を 大解剖

2月4日（土）開催「Fantastic Violin! 石上真由子とヴァイオリン」に出演いただく石上真由子さんにZOOMでインタビュー！
ヴァイオリンのこと、医者と音楽家の2つの夢を生きた学生時代の話、そして趣味の話など…
ヴァイオリニスト・石上真由子を紐解くお話をたくさん伺いました。

ヴァイオリンとの出会い——

3才くらいからエレクトーン教室に通っていたのですが、小器用だったのもあり、始めたころは練習をしなくても弾けていました。弾けるので練習もサボり始めるようになったのですが、そうしたら段々追いつかなくなってしまっ…。イヤイヤオーラを醸し出していたところ、親が「別の楽器は？」と差し出してくれたのがヴァイオリン。とりあえずエレクトーン以外だったら何の楽器でも…という気持ちでヴァイオリンを掴んだのが出会いでした。
でもよく考えると、家にはヴァイオリンを持った人形がたくさんあったり、小さなころからオーケストラのコンサートに連れて行ってもらったりと、将来的にはヴァイオリンを習わせようと思っていたのだろうなと感じています。母にしてやられましたね…（笑）。

アマチュアのヴァイオリン弾きだった叔父——

叔父（母の弟）がアマチュアのヴァイオリン弾きで、京大オケなどでコンサートマスターを担当するほどの人でした。それも、親も“ヴァイオリンはいいものだ”と感じていたのかもしれない。私自身はヴァイオリンを始める少し前には「お医者さんになりたい！」と言っていたのですが、医大生や医師の方は楽器を演奏したり音楽好きな方が多いこともあって、「大学に入った時にオーケストラ部に入るためにヴァイオリンを習っていたらよいのでは」との思いで始めさせてくれたのかなと。ヴァイオリンを始めたのは5才のころ、少し遅めですね。

ヴァイオリンを続けている原動力にもなっているヴァイオリンのかっこよさ、魅力とは——

技巧的なかっこよさもありますし、弾いている姿もすごくかっこいいと思っています。パフォーマンスが突飛してしまうのは嫌ですが、弾いているポスター（姿勢）がやっぱりすごく印象的です、自分も常に意識している部分です。あとはヴァイオリンでできることの可能性が様々あるので、そういう部分も「本当にヴァイオリンってかっこいい！」と感じます。

子どものころ所属していたジュニアオーケストラで学んだこと——

今はソロだけでなくオーケストラで弾いたり、ピアノとのデュオや室内楽など様々な活動をしているので、人と演奏する機会=アンサンブルをすることがとても多いです。そのアンサンブルを子どものうちに頭で理解するというよりは身体で感覚的に得られる環境が生活の中にあったことは、今の自分にとって、とても大きなことだったと感じています。
また、高校1年生のころに一度、コンサートマスターを経験したことがありました。コンサートマスターをしていると、周りの色々な意見が聞こえてきてバランスにならないといけませんが、その時に立場によって見えている景色が全然違うということを感じ、そして色々な立場から物事を考えられるようになっていました。

大きな分岐点、大きな決断——

9才のころ参加したローマの音楽祭

オーディションに受かったらローマの音楽祭に招待してもらえるという機会がありました。オーディション当時は8才。エレクトーンからヴァイオリンに変わったとはいえ、急げ癖は治らなかつたのであまり練習はしていなかったのですが、その頃、映画『ローマの休日』にはまっていて「あのローマに行けるのだったら！」と必死に練習したのが人生初の努力の経験でした。晴れてオーディションに受かってローマに行きましたが、一緒に行ったのは全国の楽器が上手な同世代の子たち。ちょっとしたアンサンブルの経験はありましたが、素晴らしく上手な子たちとのアンサンブルはその時が初めてで、「世界にはこんなに上手な人たちがいる」「上手な子たちと一緒に演奏できるのは楽しい」ということを実感し、少しやる気が湧きました。

小学6年生から在籍したスーパーキッズ・オーケストラ

小学6年生の時、佐渡裕さんが芸術監督を務めるスーパーキッズ・オーケストラ*が設立されると知りました。当時、佐渡さんは子ども向けのコンサートもたくさんされており、私にとっては憧れの存在。受かるか分からないけれど「佐渡さんに会いに行こう！」という気持ちでオーディションを受け入団しました。
高校3年生で卒業するまで年1回コンサートに出て、同世代のスーパープレイヤーたちとアンサンブルをすることはもちろん、佐渡さんからは音楽以外のことをたくさん学びました。きっと佐渡さんは音楽家を育てるだけでなく、音楽を通じた人間教育のようなことをされていたんだろうなと今になって思います。コンサートひとつにも多くの人に関わっていて、その人たちのお陰でステージに立つことができ、聴きに来てくれる人がいるからコンサートができる。その環境に対する感謝や、多くの方に支えられていることを自覚でき、またその経験が今の活動にも繋がっています。スーパーキッズ・オーケストラに在籍した7年間は、様々なことを考えた時間でした。

*全国からトップクラスの演奏技術を持つ、小学生から高校生までのジュニア演奏家をオーディションで選出した弦楽オーケストラ

進路の選択

小学生の時には「医大に行く！」と思っていたので、スーパーキッズ・オーケストラに在籍した間も中学受験をしたり勉強もしていました。でもその一方で、高校2年生の時に日本音楽コンクール*で入賞して、お稽古として続けてきたはずのヴァイオリンが自分の中でだんだん大きなものになってきたことを自覚していました。母もそれに気が付き、言った手前引っ込みがつかない私の性格を知ったうえで「音大に行きたかったらそれでもいいよ」と助け舟を出してくれましたが、当時の私は今よりも結構現実的で、音楽家ではご飯を食べていけないからと医者の道を選びました。勉強して医大に入学しましたが、コンクールがきっかけで増えた音楽の仕事が大学の6年間で急増し、医学の勉強と音楽活動を両立するという生活が続きました。もしかしたら医師の仕事と音楽活動を両立する方法が見つけられるのではないかと考えて両方続けていましたが、医学実習が始まり勉強が忙しくなると、両立したいというよりも、どちらかの道に絞るのが怖いという消極的選択のようになっていきました。両立したいからではなく、選べないから両方しているということに自分でも気が付いていました。そしていざ大学卒業となったとき、研修医の試験も受け、務める病院もほとんど決まっていたのですが、「音楽の道に行く」と宣言しました。自分の意思で“絶対これをする”と決断した、人生初めての出来事です。

*日本の音楽界における最高峰かつ若手演奏家の登竜門とされるコンクール



医学生時代、精神的な支えとなった友人・先生たち——

医大は学年を上げていくのも国家試験を通るのもみんな助け合いのようなところがありました。私自身、オンとオフが非常に激しいので勉強していないときは本当にしてなくて、「試験通る？」と周りから心配されたり…（笑）。同級生だけでなく先生方も色々と助けてくださって、コンサートがあると実習の途中でも送り出してくれたりと理解していただけていました。苦労しながらも音楽活動も続けられたのは、そんな環境があったからだと思っています。



©Taira Tairadate

医学生と音楽家との両立に対する葛藤とそれぞれの向き合い方——

自分自身は不器用な方だと思っていますが、それでも時間が限られるときはどうしても効率的に物事を進めるしかなくなるので、追い詰められた時は短時間で集中する能力を発揮していました。結果、勉強もヴァイオリンも相乗効果的なものはとてもありました。しかし、長期休みに海外のマスタークラスなどで音楽とじっくり向き合う生活をした後、日本に戻ってきて学校生活を送りながらコンサートしていると、食事やお風呂など何気ない時間にも何となく音楽のことを考えおり、楽器を弾いていないときも音楽のことに時間を費やしていたのだと感じました。たくさんのことをしすぎていると濃度が薄れてしまうと自覚したので、そういう意味で両立はすごく難しいなと思いました。

ステージに立つと、また戻ってきたくなる——

医大生時代、実習があると朝7時には学校に行っていました。切羽詰まっているときは、早起きして実習前に譜読みをして、楽器を持って大学に行って、昼休みにロッカーでミュートを付けて練習してまた実習に戻って、という1日を送ることもありました。



実習も終わる時間が決まっていないので、遅いときは夜9時までかかり、実習が終わるとレポートを書いて、家につくのは夜中になることも…。それでも音楽を続けてきたのは、ステージに立つ楽しさや喜びが忘れられないからです。私にとってステージは麻薬的なもので、準備やそこに行き着くまでのプレッシャーなど大変なことはたくさんありますが、でもやっぱりステージで弾いているときの感覚は何事にも代えられません。何回でもステージに戻ってきてしまうし、ステージに戻ってくることで元気になります。

“嫌い”を“好き”に変える方法——

初めて出会う分野を0の状態から0.1や1に持っていくことは辛く、その作業がとても嫌いなのですが、何か取っ掛かりができるそこから疑問が出てきます。それを少し深めていこうとしているうちに、興味や好きという気持ちが湧いてくる。自分なりのこだわりや突き詰めていきたいポイントを見つけられると、そこから100まではとても早くなります。“しなければいけない外力”と“自分なりのこだわりポイント”が私にとっては肝です。実は、私も未だに食わず嫌いで演奏したことのないヴァイオリンの主要レパートリーがあるのですが、それをあえてプログラムに入れてしまって絶対やらないといけない一種の強制力を作って自分を追い込みます。その過程で何かこだわりを見つけて、どこかで好きになるんだろうなと気楽に思っています。



©Taira Tairadate

プライベートを覗き見！

Twitterで料理や編み物など、趣味のお写真をたくさん拝見しました！フランス料理、とても本格的で凄いです！！息抜きはどんなことをされますか？

息抜きをしようと思って何かをすることはありませんが、やりたいことが色々あるのでそれをひとつずつ消化するという感じでプライベートの時間を過ごしています。2年前に東京に引っ越して初めての一人暮らしを経験していますが、すごく楽しくて！凝った料理も“あれも作ってみたい”“これも作ってみたい”と色々挑戦したり、レストランで美味しいものを食べたら“これを再現してみたい”と思って家で作ってみたりしています。

※写真上から「サーモンと夏野菜のゼリー寄せ」「クリスマスケーキ」「手編みのフェアアイル柄ソックス」全て石上さん作/写真はご本人のTwitterより



クラシック以外ではどんな音楽を聴きますか？

実は移動時は無音派です。たまに聴きたくなったときは、ジャズやポストロックのバンドを聴いたりしています。

漫画は読みますか？

凄く読みます！SFが好きです。あとは『パタリロ』のようなギャグ漫画も読みますし、『ガラスの仮面』とかも好きです。

演奏をしていない、普段の石上さんはどんな方？

ぼやぼやしてます。やりたいことは結構バイタリティーをもってやっている感じかなと思いますが、割と周りからは「抜けているよね」って言われます。プライベートの私と先に出会った方が後々コンサートを聴きに来ると、「ちゃんと仕事しているんだね」って言われます（笑）。

ずばり、自分自身を一言で表すなら？

（じっくり考えた後…）「なまけもの」でしょうか。周りからは違うと言われますが、私は結構怠け者です。寝るときは結構寝ているし、だらけるときはだらけているし、マネージャーさんのメールも返さなくて怒られるし…（笑）。

2月4日（土）14時開演
『Fantastic Violin！石上真由子とヴァイオリン』

公演情報&チケット情報はこちらから → → →

